

このままでは絶滅してしまう!! SOS!



2100年までに絶滅!

時間がない生きものたち

ホッキョクグマ
温暖化の影響で氷が減って、上手に狩りができないんだ。夏までに十分な脂肪が蓄えられないと子育てできずに餓死してしまうよ。

アオウミガメ
卵を産んだ砂浜の温度で、オス・メスが決まるといわれているよ。温暖化で砂浜の温度が上がると、みんなメスになっちゃうかも!海面が上がれば、卵を産む砂浜も無くなっちゃう。

スマトラオランウータン
森がどんどん『ヤシ畑』になって、住む場所やエサの果物が無くなっているよ。ヤシからとれるパーム油(『植物油』)はとても便利だけど人の都合で絶滅しちゃう生きものがいるんだ。

コアラ
開発や干ばつで、水やエサのユーカリがなくなっているんだ。このまま高温・乾燥した気候が続けば森林火災も発生しやすくなるよ。

2020年7月に驚くニュースが発表されました。なんと、シロクマとして親しまれている『ホッキョクグマ』がこのままでは2100年までに絶滅してしまう可能性があること。また、可愛くて人気の『コアラ』はオーストラリアの一部の州で2050年までに消えてしまうかもしれないこと…。

世界には2度と会えなくなる『絶滅』が心配される生きものがたくさんいます。私達がいま当然のように見聞きしている生きものが、あつという間に「かつて地球にいた生きもの」になってしまうかもしれないのです。

鳥根県の生きものは どうだろう?

1円玉と同じくらい! ハッチョウトンボ

体長17mm~21mm、「日本最小のトンボ」。「赤い妖精」といわれる『ハッチョウトンボ』。浅い湿地や休耕田で見られますが、環境の変化を受けやすく数を減らしています。「雲城ハッチョウトンボを守る会」は、2013年から浜田市の雲城地区で保護・観察を行っています。より多くの人にハッチョウトンボを知ってもらうため、観察しやすいように休耕田に木道を設置したり、田んぼと周辺の草刈りをしたり、木や竹を伐採して日当たりをよくするなど、トンボの住みかを守っています。地域の住民やまちづくり委員会、小中高生、大学の環境サークルも協力しています。

保全活動員にあてため、プロチなどちとたグッズも作っているよ。
「雲城ハッチョウトンボを守る会」
浜田市金城町下米原171(問い合わせ先:雲城公民館)
TEL:0855-42-2076 MAIL: kumogi-k@ph-hamada.jp

「幻の魚」と呼ばれる/ ゴギ

ゴギは西中国山地に住むイワナの仲間。イワナ属の中では、世界で一番南に住んでいる貴重な種類です。水がきれいな山奥の渓流が大好きで、山林が荒れたり河川が改修されたりすると数が少なくなる。とてもデリケートな魚です。益田市の「NPO法人アンダンテ21」は、高津川のゴギの生息状況調査や産卵場の観察、ゴギをふくむ生きもの全般のために植林・水質調査などを行っています。ゴギがたくさんいる環境を守ることは、森・川・海の豊かなつながりを守ることにもなります。流域の環境について地域や学校などで伝え、未来の担い手を育てる活動もしています。

生きもの観察会やワークショップなど、楽しいイベントを開催しています。
NPO法人 アンダンテ21 | 益田市水町18-10 TEL:0856-24-8661 MAIL: andante210@gmail.com

生きもの絶滅は、海の向こうだけのこと…? そんなことはありません。実は、私たちのすぐそばにも消えてしまいそうな生きものたちがいるのです。今回は鳥根県の絶滅が心配される生きもの「絶滅危惧種」と、彼らを守る活動を紹介しましょう。

「生きた化石」と呼ばれる/ オオサンショウウオ

オオサンショウウオは河川の上流域に棲む世界最大級の両生類。主に夜行性で、魚、サワガニ、カエル類が大好きな肉食性ですが、口に入るものは何でも呑み込むため、胃の中から野菜クズや焼き鳥の串が見つかったことも!かつては商用目的で乱獲され、国の特別天然記念物に指定されてからも道路整備や河川改修などで生息環境は悪化。近年頻発する大雨で下流域(非生息地)に流れやすくなっています。「SAN-INやすぎオオサンショウウオの会」は斐伊川水系西谷川(浜瀬町西谷)を中心に生息調査を行い、マイクロチップを使った個体登録を進めています。また、人工巣穴や河道の清掃、地元の小中学校への出前授業など普及啓発活動も行い、オオサンショウウオの保護活動に取り組んでいます。

「庭では咲くことができない/ キンラン

小さな黄色い花をつけるキンランは、キノコなどの菌類と共生し、その菌類はコナラ・クヌギ・カシなどブナ科の植物と共生しています。この「三者共生」というバランスが整って、はじめてキンランは生きることができるのです。そのため、育った場所から動かすことが難しく、環境が少しでも変わると枯れて消滅してしまいます。松江市の「里山を育てる会」は定期的に田和山の森の手入れを行い、下草刈りや間伐、竹の伐採、ブナの植林することで環境を整えています。現在は見守り活動の効果もあり、キンランは200株程度に増え、可愛らしい姿は観察会でも人気です。

開花時期の5月に観察会を開催しているよ。森を歩いて身近に自然に触れよう。普段の活動は公式HPでチェックしてね。
「里山を育てる会」 TEL:0852-23-6336 MAIL:y-ishi@wonder.ocn.ne.jp



絶滅危惧種(1類)
日本の水生昆虫です。田んぼやため池などの止水環境に生息し、魚類・水生昆虫などを捕食します。夏、水面から出ている木の枝などに米粒大の卵を70~120個ほど産みつけます。オスは卵が乾燥するのを防ぎながら、ふ化するまで保護します。生息環境の悪化や圃田により数を減らし、現在ではその姿を見ることがほぼ不可能となりました。

「しまねレッドデータブックを知っていますか?」
数が減っている鳥根県の生きものを紹介する冊子です。絶滅の危険性によってランク分けされていて、ニホンツバキなど絶滅したものを載っています。生息地や数が減った理由も書いてあるので、身近な自然に何か起こっているのか、勉強するにはぴったりに。インターネットでも見ることができます。



絶滅危惧種(1類)
「生きた化石」と呼ばれるオオサンショウウオの生息地を調べるよ!

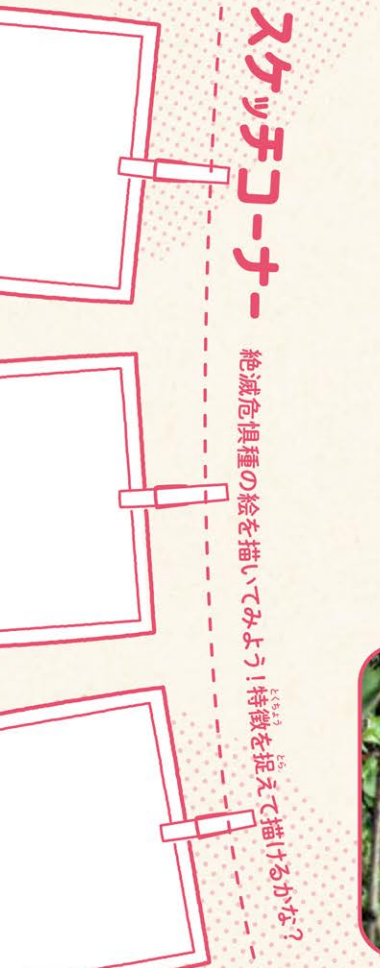
ニホツバキ (絶滅危惧種1類)

突進湖自然館 ゴビウス

鳥根県河川と突進湖・中海に生息する2000種以上の生きもの2000種以上の生きものを展示する体験型自然館です。館内には大小さまざまな水櫃があります。こだわりの個水櫃では、館のスコットキナーターのモナリとつながる「ラベレ」や、突進湖が名前につく「ランシコハセ」などの突進湖・中海に生息する生きものを紹介しています。また、「ニホツバキ」や「アサギアブ」などの鳥根の絶滅が心配される生きものを紹介する水櫃があります。

ラムサール条約登録湿地であり、それぞれ川や海につながる異なる塩分濃度をもつ2つの汽水湖を再現した「突進湖・中海」や「河川の上・中下流域を再現した「河川シオ」や「水櫃」などでは環境とともにごく身近な生きものを紹介しており、土日祝日限定で解説イベントも開催しています。自然豊かな鳥根県の水辺の自然環境にこだわった展示が特徴的なゴビウスです。水辺の生きものから鳥根を満喫してみてください。

〒691-0070 鳥根県河川と突進湖自然館(0859-5-TEL:0853-63-7700
開館時間:9:30~17:00(休館日:16日)
休館日:海老火火曜(休館日)TEL:028-12131、11月1日(休館日) http://www.gobius.jp/



モリヤオオサレ (準絶滅危惧種)

日本に生息するカエルの中では大型で、森林の樹上などに生息します。梅雨・繁殖期を迎えると水迎まで移動し、池や沼、田んぼの水まで張り出した木の枝にノットポール大の淡黄色の卵塊を産みます。ため池の減少や河川改修、道路整備による樹木の伐採などによる繁殖場所との寸断、運した生息環境や繁殖環境などの減少により数を減らしています。



オオサレは大きな卵を産むよ!

鳥根にはこんな植物もいるよ! オキタンポポ・ブナ林

涼しい気候が好きだから温暖化が心配! このまま暑くなる日本中でブナ林が減ると言われているよ。
鳥根県にはその場所にしかない動植物(固有種)がたくさんあります。例えば、『オキタンポポ』は隠岐諸島だけに咲く可愛いタンポポ。花の下にあるガク(総苞外片)が反り返らずに花にぴったりとくっついているのが特徴です。また、ハイキングや森林浴で人気の『ブナ林』は、豊かな土や海を作るだけでなく、さまざまな野生動物のすみかであり、ドングリなどの実は彼らの大切な食料です。

どうしてこうなったの?

世界各地で生きものが減ってしまったのはなぜでしょう? 原因はさまざまですが、大きな問題になっているのが「人間の影響」です。必要以上に狩りや漁をしたり、街や工場をつくるために彼らの住みかを壊したり汚したり…。中でも急速に進む地球温暖化による影響は大きく、まだ私達が出会っていない新種の生きものまで絶滅の危機にさらされています。また、暮らしの中で身近にあるものが、生きものたちをおびやかしていることもあります。例えば、お菓子や化粧品などに使われ、バイオマス発電にも使える『パーム油(植物油)』。『地球に優しいエコな油』とも言われていますが、原料となるヤシの畑を広げるため、スマトラ島の熱帯林がどんどん壊されています。もうスマトラオランウータンには行き場がありません。私達が毎日使うもの、口にするもの、便利なものの背景に何かを犠牲にしているか、例えば「地球に優しい」などのフレーズがあっても自分で確かめる必要があります。

私たちができることは?

- 買い物で世界と繋がろう**
商品を選ぶ時は、値段や見た目だけでなく、パッケージにあるマークや企業の取り組みを見て決めよう。原料の生産国など、1つの商品には沢山の国が関わっているよ。その国の自然や労働環境に配慮した商品を選ぶことで、世界の環境保全や児童労働の抑制などを応援できるよ。
- オンラインを活用して世界でどんな事が起きているか知ろう**
新型コロナウイルスの影響で急速に発展している「オンライン」。おかげで、世界を跨いで活躍する人の講演を家で聞ける機会が増えたよ。興味がある分野についてとことん知るチャンス! オンラインを活用して世界で何が起きているのか知ろう。
- ペットは家族! どんな生きものでも最期までお世話をしよう**
ペットとして持ち込まれた生きものが「外来種」として問題を起こしているよ。どんな生きものでも、ペットとは最期まで一緒にいよう。「広い外で自由に暮らす方が幸せ」なんて都合の良い理由を付けて捨てるのはダメ。面倒見きれない動物は始めから飼わないことも大切だよ。

参考:WWFジャパン「地球温暖化による野生生物への影響」学術誌「Nature Climate Change」BBCニュースジャパン「ホッキョクグマ、2100年までに絶滅の恐れ 気候変動で」WWFジャパン「パーム油 私たちの暮らしと熱帯林の破壊をつなぐもの」

今、HOTなnews!

コロナによる経済活動の制限で、大気汚染が深刻だったインドでは数十年ぶりに空気が晴れてヒマラヤが見えました。ベネチアでは緑色の運河が透明になり、一部では魚が河に戻ってくるなど、コロナ対策により生じた「環境改善」が報告されています。また、今年の世界のCO2排出量は前年度に比べて7~8%減るのではないかとされています。この数字が来年以降も毎年続けば地球温暖化の進行を止めることができ、2030年にはパリ協定で決めた平均気温上昇1.5℃未満になることが期待されます。かといって、このまま経済活動を止める生活を継続することで、目標を達成することは無理があります。そこで、いま世界が目注いでいるのが「グリーンリカバリー」への取り組みです。クリーンエネルギーを積極的に取り入れる、リモートワークを活用する、日常に自転車などの健康的な移動方法を取り入れるなど、コロナが流行る前の世界に戻すのではなく、気候変動を抑え、生物多様性を守りながら経済を立て直す、新しく健康的な取り組みが必要です。

参考:NHKおうちでまほう! for School コロナ後こそ環境問題を考えて気候科学者 江守正多さん